

高等学校事情

最終回 信越エリア

今号では信越エリアの長野県と新潟県の動きをレポートする。長野県は課題である理数系の学力伸長をめざし、県内大学との連携事業などを積極的に推進。現役進学率の向上に取り組んでいる。「個を伸ばす教育」を掲げる新潟県は、東日本で初となる「日本建築科」の開設や中高一貫教育の充実など、高校の特色化や学習環境の充実を図る。

長野県



強い県外志向 大学数の少なさも一因

文部科学省「2012年度学校基本調査」によると、長野県の18歳人口は2万1269人。高校数は公立89校、私立15校の合計104校(特別支援学校を除く)で、生徒数は公立約5万400人、私立約9950人(定時制を除く)の合計約6万350人である。

大学等進学率は49.6%で全国第25位。地元大学進学率は第43位の

15.9%と低い(図表1)。これは、4年制大学が県内には国立1校、公立1校、私立6校と少ないことが原因の一つとみられる。地理的にも長野県は首都圏に近く、さらに県南部の飯田市周辺からは名古屋市への交通の利便性も高い。長野県教育委員会は、「県外の大学に進学した保護者が多く、子どもの進学先は県内にこだわっていない」と話す。多くの生徒は、進学先として首都圏を中心とした県外の大学を意識しているようだ。

2014年度をめどに県立の長野県短大を4年制に改組転換する準備が進められており、今後の県内進学率にどう影響するか、動向が注目される。

高校の現状① 改革の取り組み

重点的な施策で 理数系学力向上を図る

長野県は、2012年度までに公立高

校から4年制大学への現役進学率を40%にするという目標を掲げている(2011年度は37.8%)。目標達成に向け、県教委は、生徒の学力向上と進路指導の充実を目的とした施策に力を入れている(図表2)。

県教委は「理数系の学力が他県より低く、以前からの課題だった」としており、学力向上施策では、特に「理数系学力の伸長」に重点を置いた支援策を充実させている。

理数科設置校やSSH指定校を対象にした施策「信州サイエンスキャンプ」では、各高校で行われている自然科学・社会科学など各系統の課題研究の共有やプレゼンテーションスキルの向上を図る「課題研究合同研修会」、その研究成果の発表の場となる「信州サイエンスミーティング」の他に、科学の甲子園長野県予選を兼ねた「信州サイテックコンテスト」などが開催されている。信州大学や諏訪東京理科大学と連携し、大学生との活発な交流を促しながら、希望する大学へ合格するための学力と意欲の向上を図る。

「信州赤ひげ塾」は、理数系の中でも医学部への進学をめざす生徒を対象とした施策である。信州大学医学部と連携し、合同合宿による受験対策講座や現役医学部生との懇談会などを設け、受験に対する実践力と医学部進学に対する意欲の向上を図る。

大学進学に向けた施策としては、県内の全公立高校の3年生を対象に毎年8月に行う「伸びる力養成講座」がある。これは、大学入試の学力試験対策講義などを県内4か所で開催するもの。春と夏の長期休業中に各高校で開講される「進学対策集中講座」と併せて、志望大学への現役合格をめざした指導を行う。

この他、大学進学をめざすための土台づくりとして、学習習慣の形成などを目的とした「プラス・ワン・プロジェクト」を1、2年生を対象に推進している。県教委によると、高校入学時には確保されていた学習時間が、入学後半年ほどたつとかなり減少してしまう傾向にあるという。「入学後の中だるみを解消する意図もあるが、進学に向けてまずは自発的に学習する姿勢を身に付けさせたい」としている。長野高校や軽井沢高校など、普通科高校13校が研究校に指定されており、進学実績の向上をめざしている。

進路指導を充実させる取り組みとして、全県の進路指導主事を集めた進路指導等研究協議会を組織し、研修の他、普段は交流のない教員同士の情報交換を促進している。また、入試問題のデータベース化や進路指導関係書籍の整備、進路情報収集のためのネット環境拡充など、これまで他県より遅れていた進路指導のための基本的な環境整備に取り組んでいる。

高校の現状② キャリア教育

産官学の連携強化で 就業体験100%へ

県教委は、2011年度にキャリア教育ガイドラインを作成し、幼稚園から高校まで発達段階に応じた指針を発表

図表2 学力向上事業(一部抜粋)

	事業名	内容
魅力ある授業の構築	算数・数学教育研究会	学区再編以前の旧12学区ごとに開催。小・中・高が連携して指導法を改善研究
	学習習慣形成合宿	学習習慣形成合宿、進学対策合宿など
理数系学力の伸長	信州サイエンスキャンプ	理数科・SSH校間の科学技術教育のネットワーク整備と理数学力の伸長
	信州赤ひげ塾	医学部等希望者の受験対策講座(意識の高揚、学力向上)
進学対策講座	伸びる力養成講座	複数校合同の受験対策講座
	進学対策集中講座	長期休業中における集中講座の展開
	プラス・ワン・プロジェクト	基礎学力・家庭学習時間向上のための研究(13校)
進路指導の充実	進路指導等研究協議会	全県進路指導主事の研修、情報交換
	大学入試問題のデータベース	入試問題データベースの整備
	進路指導書籍整備	進路関係書籍の整備
	進路ネット情報	ネット環境の拡充

した。2012年度からは産官学が連携したキャリア教育支援協議会を設け、インターンシップなどの機会拡大を図っている。

現在は、卒業までにインターンシップを実施する高校は約3割にとどまっているが、5年後には全高校・全生徒が取り組めるような環境を整備する予定だ。施策の一つとして企業や大学と連携した体験型プログラム「みらい塾24」を実施しており、県の特性を生かした林業や精密機械・電子産業の現場における就業体験、企業訪問などを行っている。

進路指導の特徴

広域県ならではの 地域別の課題と指導

面積が広い長野県では、地域によって進路指導に特色が見られる。

県北部では、再編整備による学校・学科統合や学区の再編による通学区の拡大によって成績上位層が他地域に流出し、地域の高校の学力低下や生徒間の学力差の拡大が懸念されていた。飯山北高校では小・中・高が連携し、独自の調査を行い、算数・数学のつま

ずきのポイントを探り授業改善を図るとともに、12年間の一貫した「飯山カリキュラム」の研究と開発を進め、地域全体の学力向上を図っている。また、2012年度には理数科を発展させ、探究科を設置した。2011年度は理数科39人のうち15人が国公立大学に進学したが、さらなる実績が期待されている。

県中央部の小海高校は、1学年3クラスの小規模校であるが、4つのコース制と習熟度別授業を導入して進路指導に取り組んでいる。特に推薦入試で課されることが多い小論文の指導に力を入れているのが特徴だ。生徒3人あたり1人の教員がつくきめ細かい体制で、論述力育成に取り組んでいる。

私立高校で特徴的なのが、中高一貫教育校の佐久長聖高校だ。文武両道を掲げる同校は、部活動でも全国レベルの成績を挙げているが、学力向上策としても教育課程をⅠ～Ⅲ類に分けて効率化した「類型別授業」を導入している。東京大学や医学部など最難関大学への現役合格をめざすⅠ類では、高校1年から大学入試に向けた基礎力養成のための補習を実施。高校3年では国公立大学個別試験・私立大学入試対策の特別補習など、受験日直前まで、丁寧な受験指導を行っている。

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。
※大学等進学率には、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業者を含まない。
※地元大学進学率、地元短大進学率には過年度卒業者を含む。

新潟県

新潟県の アウトライン

伸び悩む大学進学率 多彩な専門学校

文部科学省「2012年度学校基本調査」によると、新潟県の18歳人口は2万3848人。高校数は公立89校、私立15校の合計104校(特別支援学校を除く)、生徒数は公立約4万9250人、私立約1万1910人(定時制を除く)の合計約6万1160人である。

大学等進学率は全国第31位の46.4%で、2009年度の49.0%をピークに減少傾向にある(図表1)。地元大学進学率は34.0%の第18位。県内の大学数は国公立5校、私立12校と決して少なくないが、東京や神奈川など首都圏の私立大学への進学も多い。

また、新潟県内にある50校近い各種専門学校の存在も大学進学率に影響しているようだ。新潟県教育委員会は、「ここ数年は国公立志向がより強くなり、私立大学は県内であっても進学者数が減少している。その分、県内

の専門学校を志望する生徒が増えた印象がある。地元志向や資格志向が強い表れてはいないか」と分析している。

高校の現状① 改革の取り組み

特色づくりに注力 今後の進路動向に期待

新潟県では2008年度入試から通学区域を廃止した。これを受けて、2009～2011年度に「オンリーワンスクール推進事業」を、選ばれる高校づくりの推進策として実施。先導的な役割を担う学校として13校を指定し、各校の特色づくりに取り組んできた。

この施策を引き継ぐ形で、2012年度にスタートしたのが「オンリーワンスクール・ステップアップ事業」である。特色化の方向性をさらに明確にし、「起業家(アントレプレナー)教育の推進」「地域と連携したキャリア教育の推進」「グローバル人材育成の推進」の3分野を設定。それぞれに実施校を指定した。

「起業家教育の推進」実施校の専門学校3校(長岡農業、長岡工業、長岡商業)が連携した模擬株式会社「長岡CAT」の運営では、地元の大学や企業と商品開発を行うなど、実践的な取り組みを通じた学びを実施している。

さらに、県外の生徒からも選ばれる高校をめざした施策が「魅力ある高校づくりプロジェクト」である。卒業後

の進路を明確にした特色ある学科やコースを設置することによって志望者の獲得を図る。2012年度に2校に開設、2013年度も1校に新設する。

2012年度に新津工業高校に設置された「日本建築科」は東日本初となる学科で、日本建築の伝統や技術を実践的に学ぶことができる。建築現場を支える「大工」の高齢化などを背景に、後継者となる人材を育成する。

また、新潟中央高校音楽科内に新設された「ロシアンメソッドピアノ専攻」は、モスクワ音楽院などから講師を招いて個人レッスンを開講。ロシア語学習プログラムなど、卒業後の海外留学のための準備も進められている。

2013年度に開設が予定されているのが国際情報高校の「海外大学進学コース」。同校は、これまでも国際的に活躍できる人材の育成に取り組んできたが、新しいコースでは、卒業後に海外の大学進学を希望する生徒を支援する。県教委は、「すでに県外から入学に関する問い合わせもある。県内の特色ある学科やコースを持つ高校をけん引する存在になってほしい」と期待を寄せる。

この他に、学力向上施策として「進学ランクアップ事業」がある。大学進学を後押しする事業として、大学進学希望者が多く、進学率も比較的高い県立高校・中高一貫教育校31校を対象に、大学と連携した講義や実験、演習などを通して早くから専門分野に触れさせ、学習意欲の向上を図る。対象校の教員は、教材等作成研修会で、英教国を中心に東京大学や京都大学などの入試問題を分析・研究し、模擬問題の作成を行う。この問題は、春と夏の長期休業中に開催されるチャレンジセミナーのテキストとして活用されており、難関大学や医学部進学をめざす2年生が毎回約150人参加している。

この進学ランクアップ事業には地域医療を担う人材育成を目的とする「医歯薬コースの支援」もある。新潟高校、長岡高校の理数科内にメディカルコースを設置し、医療講演会や医療体験などを実施している。事業をスタートした2006年度は約70人だった県の医学科進学者数が、2011年度には113人(現役・浪人合計)と過去最高となり、着実に成果が表れている。

高校の現状② 中高一貫教育校

着実に実績を挙げる 公立中高一貫教育校

再編整備計画に基づいて、中高一貫教育校の開設にも取り組んでいる(図表2)。2002年度に開校した村上と阿賀黎明を皮切りに、2009年度の新潟市立高志まで、計8校(うち阿賀黎明のみ併設型中高一貫校)が設置されている。これにより、旧通学区8地域全てに中高一貫教育校が開設された。

県教委は、「全ての生徒の通学できる範囲に1校程度の開設が当初からのねらい。中山間地域にも設置しているので、希望すればどこでも中高一貫教育が受けられるよう環境を整備した」としている。

8校とも1クラス40人程度、2、3学級。少人数制を採っており、朝テストや土曜講座、家庭学習課題などきめ細かな指導を行っている。また、「ロードレース・ウォーキング(燕)」や「スクールカルチャー能楽(佐渡)」といった体験学習を多く取り入れていることも特徴の一つだ。今後も、6年間を系統立てたカリキュラムを開発し、学力の向上と豊かな人間性の育成を目標に手厚い指導を行うとしている。すでに卒業生を出した5校では、

図表2 公立中高一貫教育校の概要

学校名	設置区域	設置年	後期課程の学科・設置コース	国公立大学への合格実績(2011年度)
村上中等教育	新発田・村上	2002年	普通科	合格者数:44/卒業生数:76
阿賀黎明中学・高校	新津・五泉	2002年	普通科(国際・環境・教養)	合格者数:4/卒業生数:60
柏崎翔洋中等教育	長岡・柏崎	2003年	普通科	合格者数:33/卒業生数:75
燕中等教育	三条・西蒲	2005年	国際科学科(国際文化・自然科学)	合格者数:18/卒業生数:71
津南中等教育	魚沼	2006年	普通科	合格者数:13/卒業生数:69
直江津中等教育	上越	2007年	普通科	2012年度に第1期生卒業予定
佐渡中等教育	佐渡	2008年	普通科	2013年度に第1期生卒業予定
新潟市立高志中等教育	新潟	2009年	普通科(人文科学・理工学・生物化学)	2014年度に第1期生卒業予定

大学等進学率や国公立大学への合格者数においても一定の実績を挙げている。

進路指導の特徴

学習時間の徹底確保で 志望校合格をめざす

国際情報高校は、1992年に県の大学進学率向上モデル校として設置された。文系学部進学に向けて英語を中心に履修する「国際文化科」と、理工系・医歯薬系への進学を目標に理数系を中心に履修する「情報科学科」が設けられている。

1クラスを3人の教員が担当する複数担任制を採っており、特に授業や家庭学習へのサポートに力を入れている。全ての生徒が授業内容を確実に理解できるように、平日4時間以上、休日6時間以上の自宅学習を目標に掲げ、その実現のために自宅学習記録を活用している。

キャリア教育で特色ある取り組みをしているのが進学校の高田高校だ。「高高 未来 Clue Plan (ミラクルプラン)」と称する3年間のキャリア教育プログラムの一環として、2年次の10月に東京での企業訪問研修を実施して

いる。

特徴的なのは、ただ訪問するのではなく、事前に課題を与えるところだ。生徒たちは事前に訪問する企業の研究を進め、新規事業の企画書を作成する。訪問時に企業へプレゼンテーションをして担当者から評価を受ける。社会や仕事に対する生徒の視野を広げることにより、中だるみしがちな2年次に進路や将来を真剣に考えさせ、受験に対する学習意欲の向上につなげている。

私立高校の進路指導としては、2007年度に中等部を開設し、中高一貫教育校となった新潟明訓高校が特徴的だ。希望進路に合わせた4つのコース制を導入している。国公立大学合格を目標とする「Iコース」、部活動と両立しながら進学をめざす「IIコース」などの区分があり、個々の進路希望に沿った指導を行う。

前週の学習内容を確認するための毎朝の15分テストや、学習内容の復習と基礎力定着を図る週末課題を、学年を通じて実施。2年次と3年次の春休みには学習合宿を行い、1日10時間の学習を通じて本格的な受験態勢に入る。この他年間3～6回開催される進路ガイダンスや進学セミナーなど、3年間を通してきめ細かな指導体制がとられている。

図表1 18歳人口と進学率の推移

年度	2008	2009	2010	2011	2012
18歳人口(人)	25,480	24,466	24,497	23,500	23,848
大学等進学率(%)	48.7	49.0	48.4	47.6	46.4
地元大学進学率(%)	32.9	35.3	35.0	35.6	34.0
地元短大進学率(%)	65.5	58.1	59.7	58.8	64.6

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。
※大学等進学率には、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業者を含まない。
※地元大学進学率、地元短大進学率には過年度卒業者を含む。